

大阪音楽大学開放講座

音楽・心の旅 32

会場 豊中市立中央公民館 4F多目的ホール
(阪急宝塚線「曽根」駅下車 東南へ300m)

第1日 11月22日(木) 14:00 ~ 15:30

『フランス音楽に魅せられて』

～音で描く情景～

講師：油井 美加子 (大阪音楽大学教授)



第2日 11月28日(水) 14:00 ~ 15:30

『尺八の彩』

～＜音色と奏法＞の変化で表現されるものは！？～

講師：星田 一山 (大阪音楽大学講師)



主催	豊中市立中央公民館 学校法人大阪音楽大学
定員	80名 原則として豊中市在住・在勤・在学の人
受講料	無 料
お申込み先	豊中市立中央公民館 06(6866)0555
受付開始日	11月8日(木) 14:00より 電話受付 (先着順)

※一時保育もあります。＜11月15日(木)までに要申込。保育料1回200円＞

各講座の概要を裏面に掲載しています。

各講座の概要

第1日／11月 22日（木）

『フランス音楽に魅せられて』 ～音で描く情景～

【演奏】ピアノ：油井 美加子

印象派の絵画のように、フランスのピアノ音楽には自然を描写した作品が数多くあります。ドビュッシーやラヴェルの名曲にまつわるお話と演奏を交えながら、その魅力をお伝えします。一緒にイメージを膨らませてみませんか。



油井 美加子



星田 一山



原 菜里

第2日／11月 28日（水）

『尺八の彩』 ～＜音色と奏法＞の変化で表現されるものは！？～

【演奏】尺八：星田 一山 箏：原 菜里

江戸時代に尺八は楽器としてではなく宗教上の道具＜法器＞として扱われ、独自の世界で演奏されていました。明治維新以降は楽器として独奏、また箏や三味線との合奏がされるようになり一躍日本中に広まりました。今回はまず尺八本曲で使用される＜音色と奏法＞の実演を交えながら、尺八独自の表現方法を紐解きたいと思います。次に箏との合奏、宮城道雄作曲「春の海」で尺八の役割がどのように変化し、またそれに伴い演奏技術の改革と進歩がどのように促されたのかを考察します。さらに長沢勝俊作曲「萌春」で音階やリズム変化がもたらした曲想の豊かな表現力をお楽しみ頂ければと思います。